

C-16 プリーツスカートの保持性について

戸板女短大 ○香取智恵子 石井干加子 遠藤悦子

目的 プリーツスカートのひだの型くずれは、工場における加工品の場合と、個人製作の場合とでは大きな差があり、今回は後者について調査した。

個人製作の場合の成形は、工場における加工の如く徹底した加工が困難であるため型くずれの機会が多いが、それが布地の二、三の性質に関連があると共に、織目の方向によつてその傾向が大きく変化することを確かめた。

方法 十数種の代表的な布地を用い、実際のスカートでの着用により型くずれの傾向を把握し、代表的な表形例についてひだの残存角度をモンサント法、JRC法で検討した。この際のひだの成形方向は縦、斜、横と角度を替えて各々作成した。一方防しお度測定用試料を用い同一条件でのひだ成形を行い、これに引張り荷重、平押荷重を加えてひだのくずれゆく傾向を測定した。上記の二つの測定を照合し、これらのデータと共に布地の基本的教項目の性質を測定し相関を検討した。

結果 当然のことながら防しお度との相関はみられだが、斜方向の場合は布地によつてかなり特異な傾向を示し、基本的な性質のみではその特性を予測するのに充分でないことが明かとなつた。以上の検討の結果布地の性質の把握法についていくつかの考察を行い、事前にプリーツスカートへの適否の検討を少量の試料を用いて検討することの可能性を求めた。